

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 28 年度農業農村工学会大会講演会の WEB 投稿受付を開始しました	74
○平成 28 年度からの論文集冊子体の年間発行回数変更に伴う「投稿の手引き」の改定について	74
○「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」発行のお知らせ 3 月下旬発行予定	74
○平成 28 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について (再) 申請締切 4 月 15 日	75
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	75
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	76
○平成 29 年の学会誌表紙写真の募集 秋季～冬季締切 平成 28 年 3 月 31 日	76
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	77
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と 2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局について	77
○農業農村情報研究部会第 33 回勉強会の開催について 3 月 22 開催	78
○日本混相流学会混相流シンポジウム 2016 講演発表募集について 講演申込締切 3 月 18 日	79
農業農村工学会論文集内容紹介	80
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム (一般参加可) 一覧	81
学会記事	82

会員のみなさまへ

- 平成 28 年 1 月末時点で平成 27 年度会費が未納の方へ、再度請求書をお送りしております。3 月末日までにお納め下さい。
- 転職・転居などで個人情報に変更のあった方は、suido@jsidre.or.jp までご連絡下さい。また、学会ホームページの会員専用サイトからも会員登録情報の確認および更新手続きを行うことができます。

第 84 巻第 4 号予定

展望：鈴木尚登

小特集：農村地域での総合的な地域排水対策の推進と想定被害情報の共有

- ① 超過降雨を考慮した農村地域の排水対策について：遠藤知庸ほか
- ② 総合治水手法としてのため池事前放流による雨水貯留の取組み：中谷 毅ほか
- ③ 「ハイパー田んぼダム」の開発：板垣直樹
- ④ 田んぼダムの取組みの持続性を支える施策スキーム：吉川夏樹
- ⑤ 「平成 27 年 9 月関東・東北豪雨」に係る鬼怒川洪水による農地・農業水利施設の被災機構に関するいくつかの考察：川邊翔平ほか

技術レポート

北海道支部：農業高校の生徒による人工湿地の施工と水質浄化の取組み：高山裕司
 東北支部：赤川二期地区における水路補修の試験施工：松原雄介ほか
 関東支部：FRP 格子筋と高靱性セメント複合材を用いた補修補強工法：澄川幸子
 京都支部：網状鉄筋挿入工法による補強土壁基礎工の施工事例について：板垣慎二ほか
 中国四国支部：次世代の樹園地整備：山本明男ほか
 九州沖縄支部：ファームポンド遮光による水質改善と維持管理費低減：花田潤也ほか

私のビジョン：福田信二

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成28年3月9日	関東支部	平成27年度現地見学会	学生を対象とした現地見学会(六堰頭首工・神流川頭首工ほか)	深谷市ほか	84巻2号
平成28年3月22日	農業農村情報研究部会	第33回勉強会	農業農村を活性化するゲームアプリの可能性	東京都	84巻3号
平成28年6月16日	資源循環研究部会	平成28年度研究発表会	ⓑ 水循環・バイオマス利活用に係る研究発表および事例報告	東京都	84巻1号
平成28年8月30日～9月2日	大会運営委員会	平成28年度農業農村工学会大会講演会	ⓑ —	仙台市	83巻12号 84巻1号

平成28年度農業農村工学会大会講演会のWEB投稿受付を開始しました

すでにお知らせしましたように、平成28年度農業農村工学会大会講演会は、ホテル法華クラブ仙台およびハーネル仙台において平成28年8月30日(火)、31日(水)、9月1日(木)の3日間および現地研修会を2日(金)に開催します。

講演発表の申込み(WEB投稿)受付を3月1日より開始しました。

詳細は学会ホームページの大会講演会

<http://www.jsidre.or.jp/outline/zenkokutaikai/> をご覧下さい。

WEB投稿受付期間：

平成28年3月1日(火)～4月22日(金)

平成28年度からの論文集冊子体の年間発行回数変更に伴う「投稿の手引き」の改定について

論文集企画・編集委員会では、冊子体の年間発行回数について、平成26年度に実施したアンケート結果、平成27年度の投稿数、平成27年度の収支等より慎重に審議した結果、平成28年度からの発行回数および発行時期を下記のとおり変更します。また、これらのほか査読判定の区分等も加えて「投稿の手引き」の改定案を作成し、第239回理事会(平成27年12月15日開催)での審議を経て、平成28年4月1日より適用します。

【冊子体の発行】

- ① 発行回数は、年間2回とします。
- ② 発行時期は、6月末(Vol.〇〇 No.1)と12月末(Vol.〇〇 No.2)です。ただし、編集作業の都合上、実際の発行時期は約1カ月後となります。
なお、平成28年発行分(Vol.84)については、2月発行をVol.84 No.1とし、6月発行をVol.84 No.2、12月発行をVol.84 No.3とする年間3回とします。
- ③ 6月発行分については、1月～6月にJ-STAGEに掲載したものを掲載し、12月発行分については、7月～12月にJ-STAGEに掲載したものを掲載します。

ただし、平成28年発行分(Vol.84)については、No.1は平成28年1月～2月、No.2は3月～6月、No.3は7月～12月にJ-STAGEに掲載したものを掲載します。

- ④ 購読料については現状のまま変更しません。

【投稿の手引きの改定部分】

論文集「投稿の手引き」の一部改定 要旨

箇所	現行	改訂後
7.4 判定		「Z」体裁不備
11. 掲載された研究論文等のオープンアクセス	審査が終了したすべての研究論文等を随時JST…全文掲載する。	審査が終了し、掲載可となったすべての研究論文等を1カ月以内に逐次JST…全文掲載する。
12. 冊子体の作成	年間6回作成する。	年間2回作成する(ただし、平成28年発行の第84巻については3回作成する)。

なお、論文集個人購読者には、J-STAGEに新規掲載するとともにメールでその内容を連絡しております。事務局にメールアドレスを登録していない方はぜひご登録下さい。

「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」発行のお知らせ

この度、「資格試験のための農業農村工学必携 第二版」を発行することとなりましたので、お知らせいたします。

初版の「資格試験のための農業農村工学必携」は、「改訂七版

農業農村工学ハンドブック(平成22年発行)」をコンパクトに再編集したもので、資格試験に挑戦する人にとっては農業農村工学の全容を短時間で確認するテキストとして、また、農業農

村工学を学ぶ学生にとっては教科書として利用できるものとして発行されました。

今回の第二版は、初版で要所に挿入されていた「確認テスト」を最近の資格試験問題の動向に合わせて増補更新し、「テキスト」と「問題集」の分冊形式としています。是非ともご購入の上、お役立て下さい。

1. 発行書籍

書籍名：資格試験のための農業農村工学必携 第二版

編 者：公益社団法人 農業農村工学会

発行日：平成 28 年 3 月下旬

体 裁：B5 判 約 520 ページ

価 格：定価 2,777 円（税込・送料学会負担）

※会員価格の設定はありません。

2. 購入方法

I. 個人、法人の場合（賛助会員を除く）

- ①郵便振替：郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先をご記入下さい。

振替口座番号：00160-8-47993

加入者：公益社団法人 農業農村工学会

- ②現金書留：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書をご同封下さい。

- ③代金引換：書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えて E-mail または FAX でお送り下さい。別途、代引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書を E-mail または FAX でお送り下さい。

3. 申込先

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社) 農業農村工学会事務局 図書係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

平成 28 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について（再）

農業農村工学会では、平成 3 年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成 28 年度は、規程第 4 条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mail で学会事務局あてお申し込み下さい。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員（学生会員を含む）、または会員により構成されるグループ

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 平成 28 年度中（平成 28 年 4 月から 29 年 3 月）に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助

する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1 件当たりの援助金の目安

1 件 15 万円程度とする。

4. 申請締切 平成 28 年 4 月 15 日（金）

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載される。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004

東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 階

(公社) 農業農村工学会 学術基金運営委員会

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 3 月号掲載の問題は 4 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 29 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 29 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで、それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第 85 巻（平成 29 年 1～12 月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 秋季～冬季 平成 28 年 3 月 31 日

春季 平成 28 年 6 月 30 日

夏季 平成 28 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 85 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 29 年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝 礼

採用作品には規定の賞金（1 点につき 3 万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用権・出版権

採用作品の使用権および出版権は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙

写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 84 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A 4 判 1,500 字以内)
84 巻 4 号	農村地域での総合的な地域排水対策の推進と想定被害情報の共有（仮）	公募終了
5 号	農業土木での環境配慮はなぜだか難しい（仮）	公募終了
6 号	東日本大震災から 5 年（仮）	公募なし
7 号	大会特集号（東北支部）（仮）	公募なし

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿と

2015 年 1 月から 2017 年 12 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering：PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが 1.151（2015 年版）と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）

- ⑦ 地域計画（農村計画, 土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換, 施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興, 条件不利地の支援策など）

また, 世界 14 カ国から Editor (23 名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan
- ・ **Editors** 14 カ国から 23 名
- ・ **Editing Board** 26 名
- ・ **Chief Management Editor**
Dr. Jin-Yong CHOI
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea
- ・ **Managing Editors**
Dr. Yoshiyuki SHINOBU
The Graduate School of Bioresource and Environmental Sciences, Kyushu University, Japan
- Dr. Haruhiko HORINO**
Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan
- Dr. Kazunari FUKUMURA**
Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan
- Dr. Yu-Pin LIN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Rep. of China

編集事務局 (2015 年 1 月から 2017 年 12 月まで) :

・ Professor Dr. Jin-Yong CHOI

Deputy Director General, Institute of Green-Bio
Science and Technology

Rural Water and Information Engineering Lab.

Rural Systems Engineering Program, College of
Agriculture and Life Sciences, Seoul National
University

1 Deahak-ro, Kwanak-gu, Seoul, Korea 151-742

TEL : + 82-2-880-4583 FAX : + 82-2-873-2087

E-mail : iamchoi@snu.ac.kr

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は, まず農業農村工学会にご入会の上, お申し込み下さい。

なお, オンラインジャーナルへの完全移行に伴い, 2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になります。

冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局

農業農村情報研究会第 33 回勉強会の開催について

農業就業者の減少および高齢化が進行し, TPP によって日本の農業農村が大きく変貌しようとしています。こうした中, 農村を維持し, 農業を持続的に発展させるには, 農業の担い手の育成を図るとともに多くの国民に農業に関心をもってもらうことが必要です。

現在, 将来を担う若い世代に農業に関心を持ってもらうため, 多くの小学校では総合学習の時間に体験型の田植え実習などを実施していますが, 必ずしも子供たちに明るい農業をイメージしてもらえないに至っていないようです。デジタルネイティブ世代にはそれ相応の伝え方を工夫する必要があります。

一方, 若い世代では SNS として, Twitter, Facebook, LINE といった情報交換ツールが浸透し, 数々の新しいスマホ用アプリが開発されています。

そこで, 本研究部会では, 農業系アプリの開発や利用に関心をもつ方を講師に迎え, 現在国内にある農業農村に関するアプリをレビューしてもらい, ハッカソン方式で農業農村を活性化させるゲームアプリの可能性について議論したいと思います。

勉強会の休憩時間には, 新作アプリによるゲーム大会も予定しています。皆さま奮ってご参加下さい。

1. **主催** 農業農村工学会農業農村情報研究会
共催 東京大学ソーシャル ICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム (GCL)
2. **テーマ** 農業農村を活性化させるゲームアプリの可能性
3. **日時** 平成 28 年 3 月 22 日 (火) 13:30~17:00
4. **場所** 東京大学弥生講堂アネックス (農学部内)
5. **プログラム** (案: 変更の可能性あり)

- | | |
|---|--|
| 13:30~13:35 開会あいさつ | アプリの必要条件 |
| 13:35~13:45 農業農村情報とゲームアプリ
東京大学 溝口 勝 | 16:30~16:55 総合討論 |
| 13:45~14:00 カードゲームを用いた小学校の農業教育
東京大学 松木崇晃 | 16:55~17:00 閉会あいさつ |
| 14:00~14:15 PC シミュレーションゲーム「みどりさん
ちの田んぼ」
水土里ネットぎふ 堀口昌孝 | 17:30~ 情報交換会 大学周辺 (参加費 4,000 円)
※当日配布資料を後日部会ホームページに掲載予定。 |
| 14:15~14:30 スマホアプリ「シムルーラル草刈編」
東京大学 GCL 林 直樹ほか | 7. 参加費 無料 |
| 14:30~14:45 スマホアプリ業界の現状
StazioneLLC 代表, 上級 Web 解析士 赤澤正純 | 8. 申込方法
農業農村情報研究部会のホームページから申し込んで下さい。電話・メールでは受け付けておりません。
http://agrinfo.en.a.u-tokyo.ac.jp/ |
| 14:45~15:30 休憩：実物展示 (スマホゲーム競技) | 9. 問合せ先
農業農村情報研究部会事務局
E-mail: agrinfo-hq@iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp |
| 15:30~16:30 ハッカソン：農業農村を活性化するゲーム | TEL: 03-5841-1606 |

日本混相流学会混相流シンポジウム 2016 講演発表募集について

日本混相流学会混相流シンポジウム 2016 は、平成 28 年 8 月 8 日 (月) ~ 10 日 (水) の期間、同志社大学 今出川キャンパス (京都市上京区) で開催されます。本シンポジウムはオーガナイズドセッションと一般セッションから構成されており、研究成果とその討議を通じて、混相流の学理とその応用技術に関する最新の情報交換を行い、混相流研究のさらなる展開と参加者相互の活発な意見交換を目指しております。混相流は、固体・液体・気体を含む複雑流動現象であり、かつ自然界から産業プラントにまで広く見られる普遍的な流動現象です。オーガナイズドセッションとしては、混相流が広範囲の産業と密接に関わりがあることを踏まえ、環境、材料、機械、土木、原子力、化学、航空宇宙、などを横断的に含む内容を取り上げております。

このように、混相流シンポジウム 2016 では、混相流関連の研究そして技術開発に携わっておられる研究者や技術者ならびに混相流を中心とした最新の科学技術の進展にご関心のある方々による多数の講演発表と活発な意見交換を期待してござ

す。どうぞ、奮っての講演発表そして参加のお申込みをお願い申し上げます。

- 主 催** 日本混相流学会
協 賛 農業農村工学会ほか 32 学協会 (予定)
- 開催日** 平成 28 年 8 月 8 日 (月) ~ 10 日 (水)
- 会 場** 同志社大学 今出川キャンパス
- 主要日程**
 - 講演発表申込締切 3 月 18 日 (金)
 - 講演原稿提出締切 6 月 10 日 (金)
 - 参加事前登録期間 6 月 10 日 (金) ~ 7 月 8 日 (金)
 詳細は下記ホームページをご覧ください。
URL: <http://www.jsmf.gr.jp/mfsymp2016/index.html>
- 問合せ先**
日本混相流学会混相流シンポジウム 2016 実行委員会
E-mail: konsosymp@jsmf.gr.jp

改訂七版 農業農村工学ハンドブック

公益社団法人 農業農村工学会 編

本書は、「改訂六版農業土木ハンドブック」の精神を継承した上で、現代の農業農村工学を体系づけ、新分野の拡充と既存分野を整理・統合したものです。

本編 (6 部構成)、基礎編 (6 部構成) の 2 分冊とし、基礎編は、JABEE 認定プログラムに配慮して構成しました。



体 裁：B5 判 本文約 1,250 ページ
(本編約 800 ページ 基礎編約 450 ページ)
定 価：20,571 円 (税込・送料学会負担)
会員特価：16,458 円 (税込・送料学会負担)

発行：公益社団法人 農業農村工学会
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: suido@jsidre.or.jp
学会ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp/>